

## 幕末明治の写真師列伝 第二百二十六回 宮下欽 その四十四

「七月八日 八十七度

一、(前略) ○同第四時前宮下、牛込牧野氏へ行、尤国元方過日書状来り病人有之候ニ付帰宅(立帰り)致し度旨之相談ナリ、同第十時頃帰ル、(後略)」

「七月九日 曇

一、第七時頃宮下、中田へ行、一昨日遺し候写真箱、銀次郎製之方ハ三両三分ニ而差木格一ツ附ニ而買入ニ候間、其直(値)ニ而宜敷候ハ、扨可申旨相断、夫方中橋松崎氏へ立寄、同第十時頃帰ル、(中略) ○第十時過宮下、内田氏へゴム持参致し候所、大判之ま、借用致し置度旨ニ付其ま、ニ而差置、夫方私用を弁シ吉五郎へ立寄、差木格之入子催促致し、加納氏寄写真玉(註：レンズのこと)と舶来銅判画入之本持参シ、午後第八時前帰ル、(後略)」

「七月十日 曇午後第七時頃大夕立

一、(前略) ○同時頃(註：4時か)宮下、工藤氏へ行、金二分価之鯉節為土産持参ス、右同氏方入門致し度人有之、同外方再度有之候へ共、先断置候所、今般宮下立帰り致し候、尤先方之様子如何哉之旨承り候処、当時横浜へ参り、いつ(何時)方ニ居候哉不分明之旨ニ付、其儘ニ致し置、夫方疋田氏方へ立寄、右同氏方も過日入門之頼人有之ニ付、其人之心意如何様ニ有之哉、篤と承知之上ニ而承引可致間、先方へ其段伝達致し呉候旨申置、同第九時頃帰ル、(後略)」

「七月十一日 雨

一、(前略) ○同第三時過、過日内田氏(註：内田九一のこと)方頼合有之候所之富岡製糸所四ツ立判写真拾八枚、仕上げなし(話)ニ而宮下持参シ、同第五時頃帰ル、」

「七月十二日 曇

一、午後第二時頃宮下租税寮へ行、過日註文之富岡四ツ立判二部仕上持参ス、代金ハ明十三日御下ケニ相成候旨、同第三時半頃帰ル、(後略)」

「七月十二日(註：前日と同じ日付で書かれているが、これは13日の誤りと思われる)

一、(前略) ○宮下午前第十時前租税寮へ金子受取[候刃]、切手ニ付三井組銀行へ行引替致し、夫方牛込[牧野氏]へ行、午後第四時過帰ル、(後略)」

「七月十四日

一、(前略) ○午後第五時半過宮下、牛込牧野氏へ行、同第十時前帰ル、」

「七月十五日

一、午前第九時過宮下、加納氏へ行、過日写真之代金二円受取、同第十時過帰ル、(後略)」

「七月十六日

一、(前略) ○第六時頃松蔵帰ル、同第九時三戸・宮下兩人ニ而帰ル、(後略)」

「七月十八日 天気 八十八度

一、午前第八時過宮下氏、本町迄用事ニ付外出ス、同第九時頃帰ル、○松崎氏ヨリ宮下江之手紙来ル、二タ見ケ浦(二見浦)并大仏(東大寺)之写真二種二枚宛、過日ヨリ註文有之ニ付差出シ処、大仏双眼一枚ニキヅ(傷)有之ニ付取替呉候様申来ル、午後第六時頃外務省ヨリ御用状相達シ、左之通、

[外務省からの書簡書写]

其表ニ上州富岡製糸場写真其外ニ珍舗写真有之ハ

早速持参之事、

七月十八日

外務省庶務局

池之端写真師

横山方へ

右ニ付御用之趣委細奉畏候、以上、ト返書差出ス、

(通天楼宛横山松三郎書簡一通挿入)

七月十日午後第四時認候書状、同月十四日至着、能披見仕候所、都而(すべて)申送り之品々・葉・油絵類迄御遺し之由、承知仕候得共、以今当(致)着無之候ニ付、差向相困り居候、積送り之船名相印し、早々伝言ニ而御為候様支度候、宮下君江宜敷、啓次郎義ハ何れニ而、はしか(註：麻疹のこと)ニ相成候、定而(註：さだめて)他家之取世話ニも相成候哉ニ被存候、就而者(註：ついては)礼状も差出シ可申旨、是又御早便ニ而御為知被下候、(後略)」

「七月十九日 天気 九十度

午前第十一時半頃宮下氏外務省へ行、上方之景色四ツ立判見本一冊・博覧会物品并兵学寮機械写。富岡製糸場等写真之見本共二冊、桐之箱ニ入持参ス、差上置、午後第三時頃帰ル、午後第一時上野彦馬殿門人榎谷(註1)来ル、上方景色為見、同六時頃帰ル、○午後第七時頃宮下氏本町迄用事ニ付外出ス、同十二時前帰ル、午後第八時前西京ヨリ当十六日出之郵便来ル、

(中略)

一、宮下君へ宜舗(註：よろしく)、啓次郎義ハ何れニ而はしかニ相成候哉、定テハ礼状モ差出可申旨、是又早便ニテ御為知ら可被下候、(後略)」

「七月廿日 天気 九十度

一、午前第九時頃宮下用事ニ付外出ス、同第十一時頃帰ル、同第十時過松蔵・おます(増)との(殿)同道ニ而深川の方へ用事有之ニ付外出ス、(後略)」

(註1)「上野彦馬殿門人榎谷(ますたに)」とはどういう人物なのかは不明だが、ここで注目すべき点は、この門人を通じて、横山松三郎の通天楼と、長崎の上野彦馬との間に交流があったことである。

この関係が具体的にどうしたことなのかは今後の研究課題の一つとなると思われる。

上野彦馬は、明治6年のウィーン万国博覧会に写真アルバムを出品しており、そのアルバムには「長崎市郷之撮影」というパノラマ写真(長崎全景)がある。(現在、この写真アルバムは東京国立博物館蔵)

(※「方」は平仮名の「よ」と「り」の合字)

(森重和雄)